

巻頭言

大学のサイバーキャンパス化と総合情報処理センターの進化

山形大学総合情報処理センター長 櫻井敬久*

平成16年4月の国立大学法人化を目前にしてそれぞれの国立大学では慌しい日々が続いていると思います。当然のことですが、国立大学の法人化は各大学にとって未知の領域へ踏み出すことです。本来、大学の大きな役割の一つである「研究」から考えてみれば、未知の領域の探求は大学の最も得意とするところであります。しかし、国立大学法人化は探求だけでなく組織としての開拓と建設がともなっており、「知」という重要な資源を持っているとは言え荒海にでていかなければならないという不安と戸惑いがあります。

しかし、今後大学は、その蓄積している多種多様な知的情報資源をどのようにしてこの進化する情報環境に載せていくのか、そしてそれを広い意味での大学経営の中にどのように位置付けていくのかといった課題を戦略的に解決していく必要にせまられています。まさに、「舵手」を意味するギリシャ語からつくられたサイバネティクスに由来するサイバーキャンパス化の正念場です。このため、高度で快適な情報通信基盤は欠かせませんし、創造的教育研究の場である大学において自由な情報環境の保証は重要です。しかしながら、環境だけが整っても中身が有効に利活用できなければ、舵手のいない船と同じで方向性のないサイバーキャンパスになってしまいます。

このようなとき、総合情報処理センターは、その役割がますます重要になってきており大学の中核基盤を支える存在として進化しています。知的情報資産の創製と利活用により高度な教育と研究を行うところである大学にあっては、絶えず情報の制御と流通について先端的開発研究と応用を計り社会をリードしていく役割を担う組織が必要だからです。

サイバーキャンパスは、概念ではありますがモデルではありません。当然それぞれの大学がそれぞれのサイバーキャンパスを創っていくこととなります。しかし、大学の使命は教育と研究であり、情報化社会の中での国立大学がサイバーキャンパス化において整備しなければならない共通項があると思います。急を要するものとして、教育コンテンツの整備と蓄積、研究コンテンツのデータベース化と発信方法の開発、そしてリモート講義を含む遠隔コミュニケーションの研究が挙げられます。特に地方に位置する国立大学にとって高速ネットワークによる遠隔コミュニケーションの活用は、地域、国内は言うに及ばずアジア圏、世界への教育・研究の発信として欠くことができません。また、情報ネットワークの世界でも、高速道路での暴走や他人の家に無断進入するような行為は許されません。情報倫理教育の実施と情報セキュリティの確立が必要であり、それをサポートする技術面では個人認証の研究開発が必要です。さらに、法人化に伴う評価などに対して大学事務情報の一元的管理も大学経営の効率化のために重要です。しかし、これらのサイバーキャンパス化は大学として中核となる組織を整備して積極的に取り組んではじめて実現できるものです。まさに大学のサイバーキャンパス化と総合情報処理センターの進化は一体となって進むものと考えます。

この「学術情報処理研究」は、一般的情報処理技術研究のみならずこれからの大学の高度情報化に欠くことのできない重要な研究論文が満載されており、それぞれの総合情報処理センター相互の情報交換と発展にとって貴重な論文誌です。これらの研究が今後ますます進展し各センターの発展に資することを願っております。

* 〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12 director@kdeve.kj.yamagata-u.ac.jp